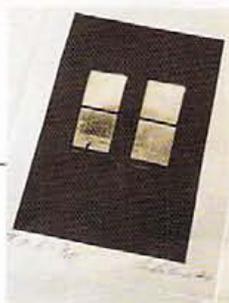


取材・文/井口啓子 写真/武藤育子

美術コレクター道マッシュグラ-!?の大宅さん。これは友人である原田チカコさんの写真版画で、特殊な技法を用いた作品。パチャママには若手アーティストも数多く出入りする。「エセ・フルクサスと呼んで(笑)」。



パチャママのスタッフでもある淺野千里さんの作品。オブジェは最新作。絵は幼稚園の頃の傑作だ。ロウファイ感漂う無邪気な魅力性がお気に入り。「個人的にすごいと思う、スーパーボール同様、新世代の感覚」とミノルさん。



しゃがれ声の酔いどれピアニスト、トム・ウェイツは大好きなミュージシャンの一人。「トム・ウェイツは全部レコードで持ってる」と漏しそ。パチャママでかかるスタンダー「B.G.M.」のひとつでもある。



いつも持ち歩いているものシリーズ。タイマーは昔のSEIKOで、探してやっと思つた見古た愛用品だ。よく天神さんや古道具屋を利用する。実はこれら使用目的は引がなく、儲けやメカの煩惑が好きで携帯しているらしい。



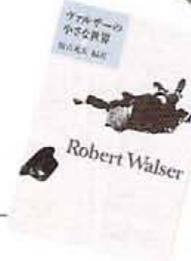
PROFILE

パチャママ店長

大宅ミノルさん (29歳)

昭和レトロなおもちゃがあることで有名なカフェ・パチャママの店長。今は無きシティライトや四条のウサギなど店長業!はお上手。またバンド活動にも熱心。そんなパワフルさとは裏腹に仙人のごとく飄々とした風貌の彼さん。実はヤマタカEYE似(笑)。

最近読んでハマった「ロベール・ヴァルサーの小さな世界」。彼自身が文壇に自作文字で綴った散文を解説したもので、「一見意味のない散文なのに、実はすごい真実が記されている。キリッと読んで「オオオオ」と」



MY FAVORITE THINGS



「ずっと欲しくて頂戴、頂戴で買った。今日の撮影でかぶってやっと思ったというインパクト、ロキックというバンドのオリジナル「シンブル」で難しくなて、作った人の人間性が出るもの好き」。

毒をもって笑いを制す!? 奥深きパロディの美学

オモチャ好きの一方で「小6の時たまたまRCのライヴに行って。キヨシローを観て、こんなカッコイイ人がいるのかとシヨックを受けた」というラマセな音楽フェリクでもある大宅さん。京都にNWの風が吹きあれた中高生期には「ライヴハウス」に通い、「フアッシュン・ミュージック・イデオロギー」でな感じでデイルンやジャックス、村八分、町蔵を愛聴。「笑い系でもシリアス系でも、常にユーモアとアイロニーが背中合わせであるような。表現としてパロディ的でちゃんと毒のあるものが好き。だからゲンズブールも凄く好き」。80年代世代らしく知的センスに裏打ちされた、ヒネくれたバカバカさをこよなく愛する彼。その美学?に惹かれ、彼の周りには今日も一筋縄でない強者達が集う。

実は京都の音楽シーン(とこや)で秘かに活動するバドマンの彼。現在「OKミューシックス」や「フックダウンス」にギターで参加。これはいつも愛用のセラフ・コリスティックギター(古い物のバイオリン)。



今大宅さんの平ムベースを愛する、パチャママ(新築第三系下止)訪問日入/075・241・1330「アパはカウンターのなかで写した。今日のボブ、下アパイトの山本哲也さん制作のTシャツ、シンプラスを贈りなす。マンなのなヤングなのだからなんメンセリセンスが移るパママです」

